むきばんだ花だより 6月

2016. 6. 4

「木下闇地を這ふ小花屈み見る」

もと

「弥生の森はツルアリドオシの宝庫です。この時期、地面を這う枝先に
小さな白い花が咲きます。6月の少く会でもたくさんみることができました。
一つの茎の先端に必ず二つの花が付くのが特徴です。誰かが
二つ並んだ花の一つを引っ張ったら二つ一緒に取れてしまいました。
くっついているのです。秋には赤い実が成りますが、実は一つで、
その実に花の萼の跡が二つ付いています。

◎ツルアリドオシ（蔓蟻通）アカネ科
茎の先に2つ並んで白い花が咲きます。
この2つの花の子房が合着して1個の実になりますので、
実の上に2つの花の跡が残っています。
名前の由来:アリドオシによく似た外観(花や実)であるが
蔓性であるため。一両とも呼ばれます。
★ 撮影日 2015,6,4 ★ 撮影場所 妻木新山地区

◎ホタルブクロ(蛍袋) キキョウ科
別名チョウチンバナ(提灯花)、トーローバナ(灯籠花)、フクロバナ(袋花)
落葉の宿根草です。日本では古くから親しまれている野草です。
花の色は白や淡紅色ですが、多くの変種や園芸品種が知られています。
名前の由来:子供が、花で蛍を包んだので、
提灯の古名「火垂ル袋」が転じた名前など諸説があります。
★撮影日 2016,6,4 ★撮影場所妻木新山地区

◎ネズミモチ(鼠黐) モクセイ科
花は、6月初めごろに咲き、花序は円錐形で枝先に出て、
木全体に真っ白の花の塊が散らばり、遠くからもよく見えます。
名前の由来は:果実がネズミの糞に、似ていることから付いた。
○利用・ネズミモチは不老長寿の薬草で、
漢名を女貞子(じょていし)といい、中国の本草綱目には
「五臓ヲ安ジ、精神ヲ養ヒ,百病ヲ除ク」とあるそうです。
また、晩秋に完熟した果実を日に干し、薬酒として
強壮強精に用います。
★撮影日 2016,6,4 ★撮影場所 妻木山地区

◎テイカカズラ(定家葛) キョウチクトウ科
蔓性の常緑低木。茎から気根を出して他の物に固着する。
茎や葉を切ると白い乳液が出る、有毒です。6月頃花を咲かせる。
花弁の基部は筒状で先端は5裂して広がる。
花は初め白く、次第に淡黄色になり、ジャスミンに似た芳香がある。
果実は細長い袋果で対になってぶら下がり、
熟すると縦に裂け種子を散布する。
名前の由来:式子内親王を愛した藤原定家が、
死後も彼女を忘れられず、
ついに定家葛に生まれ変わって
彼女の墓に絡みついたという伝説
【納「定家」】に基づく。
★ 撮影日 2016,6,4 ★撮影場所妻木新山地区谷間い

◎ネジキ (捩木)ツツジ科
落葉の小高木。アカマツの二次林に多く生育すると言われますが、
マツ枯れ以後の遷移進行にともなって、次第に減少しつつあるそうです。
花期は六月で、スズランのようなつぼ形の白い花が多数連なり綺麗です。
冬芽や冬芽がつく枝も、赤くなって美しい。
名前の由来:樹皮が捩れている意味。
★ 撮影日 2016,6, ★ 撮影場所 妻木新山地区

◎ ワルナスビ(悪茄子) ナス科
アメリカ南東部原産、茎や葉に鋭い棘があり、
種が家畜の糞に混じった地下茎から目を出す。
一度生えると駆除が難しい、外来種の多年草です。
名前の由来:明治39年成田市御料牧場で牧野富太郎氏により発見され、
「花も実も全く役に立たない」、「植物界のヤクザ」とまで言われ、
「悪い茄子」⇒(ワルナスビ」と命名された。
*要注意外来生物(外来生物法)。
★ 撮影日 2016,6,4 ★撮影場所 公園研究棟裏空地

◎クマノミズキ(熊野水木) ミズキ科
落葉の高木。直立した幹に階段状に白い花が付き樹形が美しい。
よく似たクマノミズキは葉が対生し花期が少し遅い。
また枝の段々が顕著でない。
名前の由来:三重県熊野地方に生育する、ミズキ(水つぱい木)の意味。
★撮影日2016,6,4 ★ 撮影場所 妻木山地区

◎イワガラミ(岩絡み)アジサイ科 (旧ユキノシタ科)
よく似た蔓性植物にツルアジサイがあるが、
ツルアジサイは装飾花の専片が3～4枚あるのに対し、
イワガラミは1枚で、葉の鋸歯も粗いようです。
春～初夏に若芽、若葉を摘み、そのまま揚げ物,茹で晒してから、
和え物、おひたし、油いため、汁の実にして食べる。
ほのかなキュウリの香があり美味しい。
名前の由来:岩絡み(いわがらみ)で、木や岩に、茎から
気根を出し絡み付くから。
★撮影日2016,6,4 ★撮影場所 研究棟駐車場横

◎クリ(栗)ブナ科
縄文時代から食料として、また有用な材として利用されてきたクリです。
淡黄色で紐状のたくさんの雄花のなかに、目立たない雌花があります。
全てにあるわけではありませんが、
雄花の付け根に5mm程の小さな雌花がひっそりと咲いています。
先端の、白いところがめしべです。花は独特の青臭い匂がします。
花粉を運んでくれる昆虫を呼ぶために強いにおいをだしているのです。
クリとクヌギの葉は、よく似ていますが、簡単に見分けができます。
クリの葉は、鋸歯の先端の針状の部分まで葉緑体が入つて緑色です。
このポイントを、「クリはグリーン」・「クヌギは(色)ヌキ」と覚えます。
また、樹皮も異なるので確認をします。
名前の由来:クリは黒実すなわちクロの意味。
★ 撮影日2016,6,4 ★撮影場所 妻木山地区

◎スイカズラ(吸葛)スイカズラ科
別名ニントウ(忍冬)、キンギンカ(金銀花)
常緑のつる性植物.ツルは、右巻きで若枝には褐色の毛が、
ビッシリついていますが、あとで毛はなくなります。
花の色は初めは、白く後に黄色となります。
雄蕊5、花柱1、管状になつた花を引き抜き、管を口に含んで
静かに吸うと良い香りがあつて、花の蜜は甘い味がすることから
吸葛(スイカズラ)と云われます。
スイカズラの開花期に,花蕾を摘み日陰で乾燥させる,
これを生薬の金銀花(きんぎんか)と云います。
また、秋から冬に、茎葉を採取し、刻んで天日で乾燥させます。
これを生薬の忍冬(にんとう)と云います。また若芽、若葉を摘み取り、
塩を入れた熱湯でゆで、十分に水に晒しアク抜きをしてから和え物,
煮物、油いためにに、調理します。美味しく頂けます。
★撮影日 2016,6,4.★撮影場所 妻木山地区

6月は。衣替え、春着を仕舞う季節なのか、植物の花の色も白が多い様に感じられます。今月は白い花を中心に撮影してみました。
今月の～特別ニュース～むきばんだ歩く会の植物名簿に?、新しい植物の名前を、少し詳しく紹介します。それは「ウメガサソウ」です。

◎ウメガサソウ(梅笠草)ツツジ科 (旧イチャクス科)

やや乾燥した丘陵や山地の林の中に生える。高さ10～ 1 5cmの常緑の多年草です。茎は単一か,ときに分枝する。葉はふつう2～ 3枚が茎の節ごとに輪生状に付き、各段の間には鱗片葉が互生して付く、葉は、長さ2～ 3cm位の長楕円形で縁には鋸歯がある。花期は6～ 7月。伸びた花茎の先端に径1cm位の白色の可憐な花を1～ 2個付ける。萼は5裂し,萼裂片は披針形で、果時まで残る。白色の花冠は5裂し、径約1cmの広鐘形になり、雄蕊は10個.。子房は球形で花柱がなく、柱頭は平たい円形となる。花は、はじめやや下向きにつくが、果実として熟すと上向きになる。果実は径約6～ 7mmの扁球状の朔果で5室からなり、腹背裂開する。

和名の白来:花の形がウメ「梅」に似て下
向きに咲く様子を「笠」に見立てたことによる。
★撮影日 2016,6,7 ★撮影場所～まだ, ヒミツ ～

★むきばんだを歩く会★

- 指導：鷲見寛幸先生（鳥取県自然観察指導員）
- 毎月第１土曜日午前９時３０分～正午
- 入会金　２０００円　　毎回資料代　３００円　　いつでも、どなたでも入会可能です
- 問い合わせ：むきばんだ応援団「むきばんだをあるく会」